（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年

本紙定價（▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢）

月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金（▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢）

發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久伸一郎
京城南大門小門通（電話六八六三）
發行所　京城新報社

雜錄

内外感想　一記者

宗教は韓國に於ける佛弟子の布教振りに就て甚だ不滿を感ずる。寺を建立する、說教をする、葬式の導師となる、是等を不滿に感ずるのでは無い、本邦に於ては古來佛教は山のモノと見做され、韓國に於ても亦山のモノと見做されて居る、而かも日本に於ける佛教に於けると等しく山のモノである間に大なる逕庭がある、日本にて山のモノたるは宗教の尊嚴を擁護するの意味をも含むであるのであるが、朝鮮にては往古朝鮮の意味でありたものが今は尊嚴なぞは以ての外の思想で存在を保つ爲めといふ方が適當であらうと思はれる、朝鮮に於ける佛教は實に如斯狀態に在るのである、斯る時に布教せんとする吾が佛弟子の働き振りが寺院の建立、說教、葬式、附たり石碑將者喚彈所なりといふのに限られたるが如きを遺憾とし不滿とするのである、由來朝鮮に於ける佛教は僅かに其形骸を存して、機は既に死して居るのである、何如となれば朝鮮に於ける佛弟子は累代無法にも虐げられたる結果今は人の靈を導くの働きが無いのである、故に吾輩は事實を事實として其の一件を詳說するの煩を避け、機は既に死して居ると云ふたのである。然れば本國の此山を出でゝ遙々朝鮮迄渡來された佛弟子は、何よりも先づ此の機を活さねばならぬ、寺院の建立も可、說教も可、葬式の導師も可、併せて是れを其機の活用の一部とすることは出來る、併しながら是等を以て機の全部とする譯には行かぬ、同時に十分なる其活用とすることは出來ぬ、然らば如何にして之れを爲すべきかといふに先づ信者たるべき者の氣を敎へといふのである、信者の氣を敎ふのは現今朝鮮に於ける布教上至當にして且つ十分なる要求である、基督教の信徒は基督敎の信徒たることを以て誇りとして居る、靈と云はん此人にころ抜らめ、韓氣は全數の信徒が督敎はれてゐる、韓國に於ける佛敎信者に至つては此點に於て甚だ薄弱なる信念を有してゐるものと吾輩は見た。開說今は獨逸なぞに於ても佛教が漸次盛んになりつゝありとのことだ、想ふに彼地の讀者は宗教といふ名に於て氣先づ救はれてゐるのであるが、朝鮮は賴うは然らぬ、然らぬから吾輩は布教の現狀に不滿を感ずるのである、願はくば三寶の力を以て此の國民の靈を導かせ給へかしとて斯くは警言を呈する

在韓外國宣敎師
（於東京小林外務部長談）

▲世評は誤れり　近來韓國に於ける外國宣敎師の活動に就き世間の取沙汰多くは其眞相を誤れり外國傳道會社が多額の資金を投じし布敎事業に盡力し居るは事實なれども韓人信徒が概して排日思想を抱けるを觀て直ちに宣敎師の煽動に出づるものゝ如く速斷するは不可なり基督敎信者となれる韓人が排日思想を起すに非ずして却つて排日思想を有する韓人が相率ゐて基督敎に投ずるを常とす畢竟するに保護政治に譲焉たる韓人が外敎に隱れて其憤慨を霽さんとするに外ならず斯くて彙徒輩者も皆な基督敎徒たるの奇觀を呈するに至れり目下宣敎師は米國人男女三百餘名英國人八十餘名にして共に新敎に屬し佛國人五十名內外は舊敎なり孰れも數派に分れ各派の監督者は京城又は平壤に在りて統一を計り居れり

▲統監府と宗敎　統監府は宗敎の本旨、人心の改善に在りて政府の目的と併行し得べきものなるに鑑み其傳播事業に對しては出來得る丈け便宜を與ふるの方針を執れり之と同時に宣敎師等の政治問題に關與するを禁遏する點に於て苟くも假借する所なし宣敎師も亦能く日本の政策を了解し決して常軌の範圍外に逸するが如き言動に出づるものなきのみならず宣敎師の設立に係る學校にして自ら進んで韓國の法規を遵守せるもの既に約八百の多きに上れる狀態に徵するも宣敎師が如何に政府と共同せんとするかの意思を窺ふに足るべし唯如何せん韓人牧師及び信徒等が基督敎に入れば敎外法權の下に立つが如き思ひを爲し不穩の言動を敢てする者多く甚だしきは政府は彼等に襲殺するを得ざることゝ誤認し暴力に訴へて徵稅に反抗する者あり近頃の新聞記者に宣敎師が信徒となれば課稅を免かるべしと揚言したるやに傳へらるゝは何かの間違なるべし

▲信徒の取締　一例を擧ぐるも鏡城附近に於ける一村の韓民が基督信徒と號して徵稅に反抗したる事件に關し城津本部の宣敎師某は該村民に信徒たるの事實なく單に基督敎を冒稱して法令の適用を拒みたるものなるに依り相當の處分を受けたるは自から他の眞正の信徒との區分を明かにするの機會となり寧ろ喜び居れる旨を明言したることあり斯くて韓人信徒中何の利得もなしとて基督敎より去りたるものさへありと云へば監する所常に不平の心を抱く者か將た何等かの實利を得んとする者が信徒の多數を占め居れり宣敎師に對し强ひて斯かる信徒の訓練を求むるは無理なる注文なり左れば宣敎師の注意を促がすと同時に韓人信徒の戒飭取締を爲すの方法を講ずること目下の急務なるが如し

本溪湖炭の將來

東電の傳ふる如く本溪湖の炭山は今回愈々日淸間の協約成立したる由なるが該炭山の將來に付き某當局者曰く撫順より安東縣までは二百十哩にして本溪湖よりは百四十三哩なり故に運賃の點よりすれば一噸に付一錢として六十七錢の差異あるも撫順炭は原價一噸一圓五十錢にして本溪湖炭は二圓五十錢なれば價格の點に於ては到底競爭すること能はず加之本溪湖炭の特質は骸塊性に富み普通の燃料に適せざる故に炭として販賣するにあらざれば到底撫順炭の爲めに壓倒せらるゝの外なし故に將來之れを利用せんとせば平壤方面に製鐵所を設くるの必要あるなり元來本溪湖及韓國の兼二浦附近には鐵鑛の豐富なることと實に非常の有樣なれば此所にて銑鐵を製造し日本に供給せば本溪湖炭の將來は有望なるべしと云ふ

●大東共報休刊眞相

曩に死刑を行はれたる安重根が浦鹽に於て發行せる大東共報に關係したる事あるは既報の如くなるが共報社主ミハイロフは重根の辨護料醵金につき紙上に大々的警告を連載し重根は偉大なる功績を樹てたる國士也斯かる國士に對して辨護料の醵出を惜むが如きは大義名分を解せざる大不忠議なりと筆を極にして辨護料醵金に盡力したるにぞ同地在留韓人はこれに欺瞞せられ我を爭ふて寄附を試み多額の辨護料を醵集し得たるより英人ドグラス氏を依賴して辨護の衝に當らゝ旨を廣告し同氏と共に旅順に赴くと稱して自身のみ旅順に至りしが外人辨護士は一切之を許可せざる事とてミハイロフは悄然として滿韓に立歸りたり、然るに彼れの言を信じて金員を醵出したる多數の韓人は大いに憤激し嚴に紙上に大言壯語の有らん限りを弄び日本官憲の如きは殆んど眼中になしと流說したるに拘はらず何等の得る所なく悄然として立歸りたるを攻擊し果ては彼れに推服し居たる同志の面々も相背離して顧みず最初ミハイロフの大言壯語に中てられ神の如くに崇拜し居たる同地在留韓人も聲を一にしてその爲すなきを罵倒し始めたるより憐れむべし狡奴ミハイロフは今日此頃を悄然として蟄り居れるがこの內訌の爲め大東共報も休刊を餘儀なくせられたるならんとの噂あり

日本銘刀傳
第八十七席　邑井一講演
法城寺正弘（九）

次「幾三郎がれ勝を貰つて與れと云つたかい　つ「左樣です、れ勝坊でも貰うが、聞いて與れろと云ひましたのです　つなは上意を蒙りて、羅生門へとでも云ふ次第、此のれつなが上意を受けたと云ふ譯さ　次「馬鹿め踊つて居やアがる　つ「何うしませう　次「あんな娘でも女一人だから、無暗にやることは出來ないが、然し幾三郎が如何にも不憫なものだ、彼でも早く女房でも持つたなら彼樂事になりもしまいに……れかいや／＼、一時此處へ來て與れ、相談があるのだから……　勝「はい」と返事をして、台所から驅込んで來た娘のれかな、色氣もなく取亂れたる島田髮白粉さへも斑らになつた顏で、高笑ひしながら　勝「何だね、れ父さん、用と云ふのは　次「れつなさん是れだもの、仕方がないや、まあ座つてれつなさんに挨拶をした、女のやうでもない　勝「れやれつなさん、來て居たのか、少しも氣が付かなかつた　つ「八疊の座敷に人間一疋落ちて居るのがねえ、人間が一疋落ちて居るとは　次「はゝゝさうか、何が何んだか分らなくつてしまつた、時に、れ勝や、相談と云ふのは外でもないが、れ前を嫁に與れろと云つて來た所があるのだが、往く氣があるかどうだな」さ、打付けて聽かれると、幾らた轉婆でも十七、萬更知らぬと云ふでもない、覺しるべの權抗には赤い記も打つてあるから、ハツと顏を赤かくして下を向いたつきゝ返事もなく、袂の先きでのの字を書いて居る許りだ　次「何うだ、亂暴者の癖にさう眞赤になつては困る、相手も知らずに耻かしがつて居るの、分らないじやあないか」と次郎兵衛は天窓からいふし、れかつは今にも泣出しさうな顏付き、れつなは見て取つて橫柄を入れて「れ勝さん、話をしなければ分らないが、實は小間物屋の幾さんが、是非れ前さんを女房にしたいと云ふのさ、身代の不釣合とは、知つては居るけれど、金は浮ものだから心配なし、幾さんの堅いのを見込んで親方も承知さ、れ前さんの心一つで何うにでもなるのですが、妾迄に內證で返事を聽かして下さいなねえれ勝さん」と次の間へ往つて內證で返事を聽きますと、ハイと承知の趣き、夫れから親父に話しをし、母親も承知をしたから、直樣支度に取掛つて、娘の合點と云ふからは寸善尺魔と云ふ世の譬もあるから、半時も早いが宜からうと、媒酌人を拵へて早々婚禮、四海波の聲、高砂屋の御目出度祝言も濟みましたから先づ幾三郎も安心しました併し世の中に女程割に合はないものはありません、上總屋の機嫌れどくは計らず幾三郎の爲めに其の身を汚され、又夫れが又因果にも腹が眠れて兒が出來た、兒が出來ると云ふさ愛情に引かされて、今度はれどくの方が逢に往くやうな譯になつて、今では幾三郎も持餘して、れどくの來ないやうに女房を貰うことになりましたのでだから、女は一剃損な者であります、さて幾三郎の計略成就して、婚禮の晩に京橋かられどくが義理一遍に悅びに出で來ましたが、其の後は足踏もしませんから、次郎兵衛への義理ゝ立ち、幾三郎も先づく肩身が廣く、玉屋の旦那が高事引通して呉れるので、店も繁昌致します又れ勝が赤兒のれみつを大事にして呉れる、家內一同笑つて暮す、世に是程樂しみは外にありません、其內にれ勝も腹が大きくなつて、五月の岩田帶と云ふ據てゝ加ふる悅び、一日次郎兵衛が心配らしい顏で、田町の家へ出て來まして　次「ハイ今日は　幾「オヤれ父さん能くれ出でなさいました、れ勝やれ父さんがれ出でだよ　勝「イヤ少しも氣が付きませんでした濟みません、能く入らつしやつたこと　次「能くも來ないが、新寺町まで親類の寺參りに來たから、一寸寄つて見たのだ、夫れに五郎兵衛町の家のことも一寸話しをして置きたいと思つてな　幾「何うか致しましたか、ツイ見舞に參らうと心には思つて居りますが、忙しかつたものですから、遂々無沙汰をして居りましたが、何か間違ひでも出來ましたか　次「ナーニ間違ひと云ふ譯でもないが二三日前に店を閉て、上總の茂原へ引込んだ。

京城新報

水戸浪士の偉勳

五十年祭典に就て

人は武士花は櫻田の烈士五十年祭典は正に本日を以て九段招魂社に於て擧行せられんとする、思ふに之れ畢代の辦事、會〻此機會に於て當時を追想して、烈士の偉勳に就て述べんとする强ち無用の業にあらずと信ぜらる。

史上櫻田事變とは今を去ること半世紀乃ち萬延元年三月三日水戸の浪士が櫻田門外に於て井伊大老を登城の途に襲ひ其首級を擧げて生命を奪ひたることなり、單に事實を叙すれば以上の如しである、水戸の浪人が彥根侯を打つて其首を頂戴したと云ふまでゞある、併し、其首頂戴たる今日に於ては勿論だが當時に於ても容易の事では出來たものではないのである、苟くも他の首を頂戴する而かも當時天下の大老として威權赫々たる井伊大老の首を白晝公々然と櫻田門外に頂戴する、自家の身命を賭せざるべからざるは勿論であるのである、果然水戸の浪士は決行に及んだ、而して事の玆に及ぶに到つたのは抑も何の爲か。

幕末の偉人は何と云つても**德川烈公と井伊直弼**とであつた、烈公は義公の意を繼いで**親藩**を以てして**尊王主義**を奉じた、直弼は德川家**譜代の大名**として**保幕主義**を奉じた、尊王と保幕當時の事情に於て普通凡人の眼には容易に其良否の辨別が付かぬ、併し兩雄は毅然として各奉ずる主義の宣明と實行とに勉めた、兎角する間に**米使**ペルリが來た、**幕府**に向かつて**條約**の締結を迫つた、國論は一時に沸騰した、今日で云へば烈公は對外硬の筆頭であつた公は當時の國學者に因つて具さに海外の情勢を承知し居つた、公はペルリの來らぬ前**魯人の北邊**を窺ふを知つて**蝦夷地海防**の策を建てた、之れ位であるから公は米使の來朝を以て決して偶然とは思はぬ、條約の締結は早晚止むを得ぬと信じた、併し如何にかして**對等**の條約を締結せんと希望した、其結果今日での對外硬當時の**攘夷論**なるものを唱導するに至つた。直弼は偉人の身を以てしても其眼中在るところのものは只德川家であつた、幕府の德川家、德川家の幕府彼は如何なる手段を以てしても之を維持せんと試みた、れ家の維持は幕政の基礎であつた、彼は此基礎を動かさゞるを以て國家の幸福と信じた。米使の要求は益〻急となつた、京都は已に攘夷論を以て充さるゝに至つた、直弼の進退谷まるに到つた、果然彼れは**違勅**の大罪を犯してまでも**神奈川和親條約**なる極めて**不對等**なる條約に調印した、彼が此擧は一に幕府の威信保持にあつた併し如斯は德川家以外國家あるを忘却したる所爲であつた。條約締結の發表は沸騰せる國論に百倍の沸騰を加へた尊王攘夷の徒は憤慨に憤慨を重ねた、併し幕府の威權は尙ほ大なるものがあつて大老井伊は違勅の大罪を犯して尙ほ**平然**として**執政**の局に在つた尊王攘夷の急先鋒たる水戸は井伊の亡狀を見て少なからず憤慨した、違勅の臣の國家を危ふすべきを慮んばかつた憤然、決然、起つて浪士十八人遂に掃部頭の首を櫻田門外に刎ねた。時に浪士の一人佐野竹之介歌つて曰く

敷島の錦の御旗もちさゝげ
皇ら軍の魁やせん

浪士此一擧は違勅の臣を倒し、我帝國**大權**の**所在**を明かにし同時に**對外硬**の**精神**を確定するに大効があつた、爾後勤王の士四方に起り王政は復古し、明治政府は起り國運隆々以て今日に至る。

直弼が不對等條約を結びたるの罪も今は夢なり、來らんとする四十四年に於ては我と列國との間に眞の對等條約は締結せらるゝのである、余輩は此秋に於て**櫻田烈士の偉勳**を追想し同時に天祐の我國家に厚からんことを祈つて止まぬのである。

東京電報

▲**韓國勅使へ賜餐**　渡邊宮內大臣は御沙汰により本日韓國謝恩式官高義敬同承寧府侍從李恒九を芝離宮に招き午餐會を開かる（八日）

▲**鹽田整理の內容**　法律第四十八號を以て公布せられたる製鹽地整理に關する法律の內容は大要左の如くなり（九日）

一、專賣法により政府は鹽又は鹹水の種類の製造方法を區域し其區別を變更することを得し場合に政府は禁止せられたるものゝ請求により交附金を總額二千二百圓以內の範圍に於て交附す（五歩利付公債を以て）

一、昨年十二月に於ける調查により製造を廢止したるものと認むる時は交附金を交附せず

一、政府は交附に必要なる公債證券を發行することを得

一、製造禁止區域內の製鹽專用建物及び其器具は政府は監督上必要なる處置を爲すことを得

▲**侍從武官の急派**　侍從武官奧村卓治氏は重要なる勅命を承はり昨夜新橋發渡韓の途に就けり（八日午後九時着）

▲**國寶編入の公表**　去月下旬開會の古社寺保存會にて審查の結果國寶に決したる繪畫彫刻、古文書、刀劍等八十四點にて近々公表せらるべし（同上）

▲**攝政王と濤貝勒**　爆烈彈の危害を免れ給へる淸國攝政王は載濤殿下に對し親電を發せられ○國に立寄る時は力めて飛躍を加へ滯留久しきに亘る勿れと警告相成りたる由にて爲めに載濤殿下の御旅程或は幾分變更せらるゝやも知れずと（同）

▲**淸國觀光團來る**　淸國日本觀光團は愈々明十日大連發の鐵嶺丸に搭乘十三日午後神戸着六時三十分神戸發東京に直行滯在十日間横濱名古屋京都奈良大阪等を觀光して九州に到り下關より乘船歸國す旅程日數約四十日間なり（同上）

▲**衛戍總督事務取扱**　軍事參議官陸軍大將西寬二郎氏は川村大將不在中東京衛戍總督事務取扱を仰付られたり（同上）

▲**指紋法の好成蹟**　司法省監獄局に於て實施中なる指紋法は成績頗る良好にて累犯發見上顯著なる成蹟を示し北海道に於ける犯罪を巢鴨にて發見せる事さへあり類別整理完成后指紋臺帳を調製せらるべし

▲**阿里山官營の方針**　本年度より着手さるべき阿里山森林作業の順序に就き當局者曰く創立時代を五年と定め森林鐵道を完成すべし本年度廿五ヶ年の伐木區域を定め次年には樵夫の募集を終り三年目に始めて約十萬尺〆の伐木製材を爲し四年目即ち四十六年より森林鐵道によりて材木の運搬を開始し四十七年度に貯木池を完成し製材の試驗を成し副業たる木炭等の製造品類の養殖を成す計劃なり（同上）

▲**木內次官統監訪問**　木內農商工部次官は昨日曾禰統監を片瀨に訪問したり（同上）

▲**渡米實業團の贈品**　渡米實業團の米國側歡迎委員長ローマン氏を初め各委員に對し純金製花盛を贈呈する筈にて既に調製を了へたるが右は斯道の大家海野勝珉氏の作にて精巧米人をして驚嘆せしむるものあるべし（同上）

歐洲電報

▲**露國の移民計劃**　露國政府は年々多額の補助金を與へて歐露方面より西比利亞に移住せしめ居れるが今年度の移住民數は三萬五千人の豫定なり（同上）

▲**露國の豫算削除**　露國本年度豫算は四百廿四萬留の剩余金を計上し議會は製艦費の中より數百萬留削除せり（同上）

▲**同盟罷業と損害**　馬耳塞の海員同盟罷業は益す猖獗を極め航海業者の被れる損害は巨額に達したり（九日）

▲**露外相の獨逸行**　露國外相イスボルスキー氏は四月八日獨逸に來り當分ミユンヘンに滯在すべし（同上）

▲**騷亂無關係の確定**　アルバニア國の騷亂に關し土耳古は希臘、勃牙利國の之に干與せざることを確かめたり（同上）

▲**公果國會議終局**　白耳義ブラツセルに於ける公果國に關する會議は近々終局すべし（同上）

桑港電報

▲**南米戰雲益々急**　南米智利、秘露の國際關係は依然睨み合の形勢なるが智利は戰鬪を希望し秘露は開戰を避け居れり（九日）

雜報

韓太子の御親電

一昨八日韓[illegible]宮へ左の御親電ありたる由

兩國御安寧なるや臣無事本日日本皇太子殿下を訪問せり

漢城市政の統一

地方行政調查委員會の結果日韓兩行政の統一は唯一の問題として提唱されたるは既報の如くなるが元來現制度の龍頭蛇尾は孰れも之を認め日韓關係の進行如何に拘らず之を打破し之を刷新すべしとの意見一致したるを以て當局者は地方の狀況によりて緩急の程度を參酌し先づ漢城市政より統一せんとの議あり就て京龍兩民團の併合と共に此統一問題は近々實行さるべしと云ふ

●**韓人郵便貯金現況**　統監府通信管理局にては曩てより郵便貯金の奬勵に努めつゝありしが韓國政府側にても內部學部及度支部より觀察使又は財務監督局長等に訓示通牒等を發して勸誘する所ありたれば韓人の郵便貯金は日本人の貯金增加割合よりも遙に好成績を擧げ得たる由にて去る三月末日の調査に依れば居留日本人の貯金高は昨年三月末日と比較するに預け人に於て二割三分六厘を增し預け金額に三割○八厘を增加したれども韓人の貯金高は左の如く預け人に於て八割一分一厘を增し預け金額に於て六割七分四厘なる多額の增加を爲せりと言へり

韓人の郵便貯金高

末日現在	預け人員	前年同月との比較增歩合	預け金額	前年同月との比較增歩合
四二年三月	一〇、九九九	…	壹、八三三	…
四三年三月	一九、九三	八割二	一三六、八六五	六割七四

●**漁場調査員の出張**　既報の如く農商工部に於ては免許漁業出願に係る各漁場の實地を調査する爲め十日より左記の如く吏員を出張せしむることに決定したり

△全南沿海　淺原技師、木下主事、寒山屬員（調査日數は十日より五十日間の豫定）

△全北、忠南、京畿、黃海沿海　遠山技手李顯輝官（調査日數は十日より五十日間の豫定）

△慶北、江原、沿海　齊藤技手、關技手、李主事（調査日數は十日より三十日間の豫定）

△咸鏡南北沿海　小島技手、金雇員（調査日數は十日より五十日間の豫定）

●**大韓協會總會開催**　大韓協會にては去る六日評議員會を開き同會の發展策に關して評議したる結果寒暖に當り民心懈氣を生じて公事を等閑に附する虞あるを以て此際十三道の各支部へ檄して民心を鼓舞することを決議したる由にて猶ほ右に關し九日午後二時より總會を開きし由

●**李範允の密使徘徊**　露領在留の排日首魁李範允の密使數名入京せる由傳へらる彼は近來頻りに北韓方面にも麾下を徘徊せしめて民情攪亂に努めつゝあるが如しと

●**軍令司部の諮問會**　憲兵分隊長會議の爲入京中の各分隊長は軍司令官の地方狀況諮問に應ずる爲九日午前九時より軍司令部に參集せり

●**分隊長會議の結了**　憲兵隊本部に於て開會中なりし駐韓憲兵分隊長會議は九日を以て結了したり

●**度支部の運動會**　度支部にては九日午后一時より慶熙宮內に於て高度支部大臣主催の下に運動會を催したるが參會者千有余人あり種々の競技を爲して模擬店を開始し頗る盛會なりしと

●**仁川民團の寄附**　仁川民團より碇船中の第二艦隊乘組下士以下活動寫眞觀覽券及び湯札を兩婦人會仁川支部より繪葉書を夫々寄贈したりと云ふ

●**兩婦人會の觀艦**　愛國、篤志、兩婦人會員は十日仁川碇船中の第二艦隊を觀覽する筈なるが希望者は同日午後二時迄に海岸棧橋に集合せらるべしと

●**檢事長の招待會**　國分檢事總長世古控訴院檢事長は入京中の憲兵分隊長を十日午後六時より花月樓に招待すと

●**榊原隊長の招宴**　榊原憲兵隊長は九日午後六時より入京中の分隊長及在京憲兵將校を京城ホテルに招宴する由

韓國柞蠶と飼葉

柞蠶の豐凶は主として天候の良否に支配せらるゝと雖も飼葉の善惡も又與りて大に力あるものなり勸業模範場に於ては飼葉の良否が蠶兒の發育經過及繭質に及ぼす影響如何を試驗する爲め昨年春秋二季に孵化より結繭に至るまで一は良葉を與へ一は不良葉を給與し其經過を調查したり兩區とも十蛾の產卵を供し孵化蠶數各千八百二十顆にして同日に放養せしが二季共結繭を了する迄に良葉は六日余早く收繭量は春季に於て良葉區九百一顆に對し不良葉區七百八十五顆化して良葉區の上繭は不良葉區の二倍强を示し秋季は良葉區二百七十八顆上繭二百三十三顆に對し不良葉區三十六顆ないし不成績を示せり繭質にも大差を生じ良葉區の成績は遙かに不良葉區に勝れたり之に依ても柞蠶の飼育は必ず良葉を用ひざるべからざることを知るべく誤つて不良葉に放養したる時は可成之を良葉を有する樹に移すを肝要なりとす殊に氣候の不良なる場合にありては一層此點に注意せざる可らず而して良葉を給したる蠶兒は常に活潑にして皮膚淡綠色を呈し彈力に富み且つ肥腫なれど不良葉に飼はれたる蠶兒は不活潑なるのみならず皮膚彈力に乏しく其色幾分淡黃を呈し特に頭部は濃褐色を帶び他に良葉を求めんとする爲か食すべき葉十分存するに拘らず一樹に止まらず異動し爲めに遺失するもの少からず此現象は亦過乾蒸暑等の場合に於て殊に甚しきものなり作蠶飼養者は常に氣候に對し十分の注意を拂ひ且つ怠りなく飼養地を巡視し蠶兒の健否を察し其管理をも誤りなきを期せざる可らず因みに良葉とは濃綠を呈して葉肉厚く且つ比較的柔軟なるもの不良葉は淡綠にして幾分淡黃を帶び葉肉薄く且つ粗硬なるものなり

●**農工銀行營業狀態**　韓國農工銀行營業現況を聞くに今春來の成績は前年同期に比し餘程良好の由にて貸出總額は四百五萬餘圓其の內譯は年賦償還貸付金四十四万圓定期十一萬七千圓其の他諸貸付三百四十八萬七千餘圓なり而して總運轉資金五百二十二萬餘圓に對し約九十萬圓の遊金あり尙ほ預金總額は百七十二萬圓にして前年同期に比し數十万圓の增加を示し居れり今預金の銀行別を記すれば漢湖七十三萬四千圓慶尙三十五萬七千圓平安二十萬圓全州十万八千餘圓光州十二万八千餘圓咸鏡十八万千圓なり

●**長官室の重要會議**　若林警視總監、中川地方裁判所檢事正、松寺司法部長官代理、青木警視等は九日午前十時より石塚總務長官を統監府に訪問し約三時間に涉り或る重要問題に關し協議する所ありたり

●**汽車博覽會發會式**　朝鮮新聞社にては同社主催の韓國汽車博覽會發會式を來る十六日午前十時京城南大門驛に於て擧行するに決し同社々主萩谷籌夫氏は九日京仁間の官民二千餘名に招待狀を發したり

●**ル氏一行の滯京期**　ルーズベルト氏の妹婿一行は九日午後安東縣着十日朝新義州發一番列車にて即日來京十三日朝迄滯在の筈なるが十二日には統監邸に於て歡迎會を催すと

●**米國總領事代理者**　在京城米國總領事シドモーア氏賜暇歸國に付不在中は副領事グードド氏總領事の事務を處理す筈なりと云ふ

●**會計檢查官の渡韓**　中村會計檢查官の一行は來る十八日東京出發大邱に直行する筈なりと云ふ

●**第二艦隊公衆縱覽**　仁川碇船中の第二艦隊四隻は今明日午後に限り一般公衆の縱覽を許可すと

●**朴內部大臣仁川行**　仁川松峴山なる水道工務所視察の爲め今十日朴內部大臣下仁すべしと云ふ

●**高橋廉世氏出張**　妹婿出迎の爲め高橋副理事官は九日朝南大門發汽車にて新義州へ出張したり

●**平渡書記官歸任**　內部地方局長府郡課長平渡書記官は九日夜歸任せりと

●**篠田書記官出發**　東上中の篠田農商工部書記官は八日發歸任の途に就く

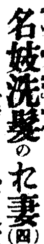
龍山通信（九日支局發）

▲宇佐川東拓總裁、李址鎔、趙重應、閔宮相等九日午前九時南大門發列車にて水原に赴けり▲岡鐵道院參事は九日九時三十分發列車にて鐵道事務視察の爲め京義線へ出張せり▲大久保軍司令官九日午前憲兵各部隊長を召集し訓示を爲し後午餐を饗せられたり▲軍司令部獸醫部長は九日龍山在勤の各獸醫を召集して會議を開けり▲昨紙所報の如く龍山民會にては一昨八日正午より桃山遊廓地域擴張の案件に關する調查委員會を開き民長出席して今日に至る迄同案に對する理事者の調查したる處を演述せり午後二時民會開會出席議員十名海津議長缺席の爲め國井議員議長席に就き議事を開始するに先ちて大村委員より調查の經過に就き報告する處あり委員會にては擴張を可とするに決せりといふや竹內議長は現に遊廓地に大部の空地を剩せるに際し其必要を認めず余は委員會に於ても同樣の意見を述べしも贊する者少數にして遂に破れたれども本議會に於ても同樣の主張を爲さゞるを得ずと唱へ阪崎議員之れに贊成し林議員は本案は遊廓經營者其債權者間に意思の疏通せざる點あるものあり野中推弘氏團體の勢を執り且同氏の發意にて株式會社を組織し債權を株式に引直さんとするの計劃ありとのことなれども而して勸農會社等は此の擧に同意を與へたりと云ふを聞でも或新聞には同會社は衷心之れに贊同したりとは見れず然れば遊廓の擴張問題なる結着を見る迄は本案の決議を延期したしと述べ渡邊議員は他の理由にて同じく延期說を述べ採決せしに林議員の動議多數にて成立し之れにて議事を終り夫れより交番兵派遣の準備に關する協議を爲せしが總て民長に一任することゝなりたり

記者曰遊廓問題に關しては種々の浮說を傳へられつゝあるに依り余は大久保民長其他の關係者より聞き得たる總てを次回の紙上に記載し以て事實の眞相を捉ふるの資料に供せん

▲**治外法權**▼

今や櫻花爛漫たるの時に於て而かも櫻田浪士五十年祭典が本日擧行さるゝ、何もかも櫻づくめ浪士在天の靈も嘸や喜ぶことだらう▲櫻田の浪士と云へば其總數は二十人で中十八人が難に殉したのだ、大將の駕へ小銃を打籠け薩藩有村治左衛門井伊侯を射たりと大音聲を擧げたのは水戸の家中から薩摩の家中へ養子に行つた人だ▲浪士は前に贈位の榮を擔ひ今亦祭典を擧行される、ソレに引換へ氣の毒なのは掃部頭だ、折角出來た銅像も今以て日陰者扱を受けて橫濱掃部山なる井伊家の私有地に淋しソウに立つて居る、心すべきは順逆の道だ▲櫻田で思ひ出したのは小野五平と云ふ將棋の名人だ、彼は萬延元年に丁度十三才で初段であつた、彼は櫻田事變の當日丁度棋局に對して居つた、所親は櫻田御門外に大變があつたと五平に告げた、五平はアーソーですかと云つた許りで將棋を止めなかつた、名人になる者の心掛はコンなものか▲數年前記者の親戚に當る水戸の老媼二人が東京は本鄕座に血染雪を見物した、役者の扮した齋藤監物が少し下品に見えた、老媼の一人は樂屋へ抗議を申し込んだ、曰く從五位下朝散太夫齋藤監物はアンナ下品な人柄にはあらざりしと▲東拓は群山で競爭的に田地を買込むソーだ、一體何をするのだ、一私人と田地の買入などに競爭しては會社の爲にならぬ。



名妓洗髪のれ妻（四）

▽妹のますは後に小奴 ▽姉妹共によねの喰物

私の氏素性から云つても對州の實家の現在から云つても私ア今のやうな斯んな身の上になる筈ぢやありませんのが斯んな泥水稼業をして居るのはみんな山下のれよねの爲めなんですがれよねとの關係を云はぬと分りません實は斯うなんですよ▲よねといふ人の御亭主は其れは御人好しの男で當時鹿島組の技師をしてゐました名は山下弘といつたのですが小田の家と山下とは舊い頃からの昵近なものですから晝となく夜となくれよねが遊びに來たりなんかして往來をしてゐたのです處が私の妹のますは後に矢張れよねの手で藝者にされた小奴の事なんですよ——がれよねの家に預けられて居ました其んな斯んなで小田の家とは益々懇意になつた▲一方では貴雄は文部省以來の事なんですが月給なんかで月々の事は足りては無い稼いでも〳〵放蕩が劇しいのですから何うも斯うも始末が附かぬ島根の學校の方だつて借金に借金を重ねてゐたので其爲めに土地を引上げねばならぬ事となつたのです勿論私は例の貴雄を兄さん〳〵で押通してるれ嬢さんですから借金の事なんかはちつとも知らなかつたのですがね、考へて見ると當時私が一寸でも戶外へ出ると學校のれ嫁さんが出た〳〵といふ騒、家の中ぢや其んな贅澤をしてゐて外では貴雄が放蕩をしてゐるのですもの遣り繰が附かぬので逐々前云つたやうに貴雄が上海の郵便局長で出かけるといふ事になりました時に私を人もあらうに妹のますがゐるといふのでれよねの家へ預ける事になりましたがれよねはれよねで腹にはちやんと成算がある不斷から私等姉妹を引取て末に左團扇といふ心なんでせう、だから一方私に悪い智慧を附ける傍にゃ貴雄の方に小金を廻して裏からは放蕩を煽よかしにしてゐる譯なんです、金を借して道樂を奨附けときながら表面では借金の催促は矢のやうなのでせう其上貴雄が下らぬ海老屋りゅうといふ女に引掛つて女の兒を生ましたのをれよねが陰になり日向になりれりゅうの方の始末をして貴雄にはウンと恩に着せてるのです▲其處へ貴雄の支那行の話で私をれよねの家へ預けるとなつたものですから時節當來と見て取つたよねは表面から開き直つて貸金の催促とれりゅうの一件を攻道具にして貴雄さんのやうな男にはれつぎ——私の本名なんですよ——は嫁つて置けない離縁を取らうといふ話なんです喧ましい談判のあつた末田村滋作といふ代言人までが入つて、私は無理に離縁を取られたのですが肝腎の本人の私は木偶の坊のやう、れつぎ今日からはれ前さんは貴雄さんのれ嫁ぢやないのだよ分つたかわどれよねに云はれてあゝさうですかと云つたやうな調子だつたので其儘れよねに引取られて妹と一處に住む事となり貴雄は上海へ發つたのですが殘つた私等姉妹は何れはれよねが喰物になるのでしたらうが玆に急にれよねが犀狼の牙を磨く愈々其本色を吐くに至つた出來事が私の身に起りました（昨日迄綾雄とせし貴雄の誤り）

貴婦人の高利貸

▽前身は下谷池の端藝妓 ▽十割乃至十八割の高利

在韓邦人上級官吏が莫大なる俸給手當を頂戴する所より載る者は折花攀柳の痴態を演じ直間接に居留民の風紀を紊し其の夫人連は奢衣裝飾品に華美を衒ひ青年士女を驅りて奢侈輕浮に流れしめ然らざるは蓄つて愈々汚なき灰吹き主義に傾き一世に師表たるべき地位に在りながら貪婪飽くなき高利貸者流を學びて識者を顰蹙せしめつゝあるは十中の八九皆な然らざるはなきは匿れたる而して顯はれたる事實なるが此所に前法務院長香阪氏夫人れい子の方の如きは後者中に在りて嶄中の錚々たる者なりとの噂專ら事實の有無は見る人の心々に任せて聞き得たる所を紹介するに先だち同夫人の前身を説かんか今は昔花の都は世を不忍の池の端に何子と呼べる花恥かしの歌姫ありけり蝶名上野の鐘の音より高く艶姿辨財天をして後に瞠若たらしめたとやらの程なりければ浮れ男の言ひ寄るも多かりけり元來より後園の楊柳にもわらず秘苑の花と云ふにもわらで澤ふ水探しても瞎なんことを希ふイエスオーライサンキューベルマッチの不見轉フルシャンのフランチル藝妓た姿からぬ客筋に打ち込みしは即ち今の日本大審院判事香阪駒太郎氏なりける也古人曰く一つ宜ければ一つが悪いと宜なる哉と云ひたい程に此の古人の金言が駒太郎氏に適中し色男に及第した代りに大學の方は二度迄落第、本來ならば現統監府總務長官事務取扱石塚氏なんぞと同期に卒業すべかりしなり、普通大抵の交情ならせば初め一度の落第で縁切り話じみを持ち出す所なれど思ひ合ふたる二人が縁の糸は縺れに縺れて逐々解けずに終つた次第駒太郎氏が漸うヤット三度目の試驗に卒業したを機會に合衾の式……更に正しく合衾の式を舉げたるなり其の后の香阪家はれ目出度續きで駒太郎氏の腕はよしれい子夫人は男勝り內助の功に外助の功種々なる方面に立ち入りて良人の出世を計りたる其の一例は香坂氏が法務院に雇聘せられ着城固もなく夫人自ら時の總務長官鶴原氏を訪問し「是れからは駒太郎が何かとれ世話に成りまする何分共れ引立てを」と行られた相で此れには流石の鶴原長官もアッと斗りに感じ入つて開いた口を閉がずに置く物騒さをも忘れた程にて之れが外助の一例なり內助の例が良人が役所から戴いて歸らるゝ莫大なる金を勤儉貯蓄し駒太郎氏には知らせずして更らに之れを利殖すべく十割乃至十八割の高利にて京城龍山兩地の質屋料理屋に貸し出したる額は龍山方面に八千餘圓京城に二萬四五千圓の多額に上り居れりとか香阪氏遞回の轉任も實は此の內助の功が世間にパットしたる爲めなりと傳へらる夫れが嘘でない證據は香坂氏に別れて一人旭町一丁目邊に假住居し居ることとなり此れ其の跡始末を附けんが爲めにて現にれ手の者の裁判沙汰になり居るものもありと地方裁判所の腰掛で話して居たのを誰だと思ふ

左は萬延元年三月三日水戸浪士十八人連動の幕臣伊井直弼を櫻田門外に擁して其の首を斬りたる當時の上下驚駭の情を讀みて刷行したるもの也

異國交易横濱盛ん、諸色高直下々愁く、一兩小判三兩餘り、二月中より雨天が續き、彌生の三日が大雪降り櫻田堀端にわかに騷ぐ、手負打死双方にあり、小筒を發して轎輿を破り首を掻取る、老中小名大名旗本狼狽へたやろぐ、道中早打ち宿々歎ず、米の相場も次第に昂る、見附門々出入を改め、れ暇大名國入止まる、役人腕組み切りに歎ず、嗚呼如何なることかな。

三面電報

▲神戸爆發事件

神戸港に於ける一汽船の火藥爆發事件の爲め負傷者三百餘名を出し尙は船體の破損せるもの數隻に及び慘狀を極めたり（九日着電）

▲神戸慘事詳報

神戸港圖平船爆發の損害其後の調査によれば神戸瓦斯會社の大タンク小タンク破損損害約三十萬圓神戸電燈會社發電所被害約二千圓等にて被害區域東は東明邊、神戸市內、山の手西は和田岬に及び負傷者は三百餘名に達せり爆發の瞬時海岸鐵橋を疾走せる電車が音響の爲め窓硝子全部を破壞され乘客すら九名負傷したるによつても如何に猛烈なりしかを想像さるべし負傷者は東明病院に收容し縣廳赤十字社支部は救護班を現狀に派遣し救護に力めたり（同上）

●五月場所初日 國技館五月場所大相撲は豫ねて其筋に出願中の處ろの程許可ありたるを以て七日例の如く「蒙御免」との立札をなし古例を見て御免觸を催ふす筈なるが東北地方巡業中の常陸山、太刀山、駒ヶ嶽の一行及び九州巡業中の西の海、國見山の一行が來月二日迄に歸京の豫定に就き五月場所大相撲番付は三日午前四時發表し初日は翠十一日と決定し居れるが十三日は金曜日に該當し三日目の十三日と十日目の二十二日を日曜日に當て込む方利益ならんとの意見多數なれば結局十三日初めの事に決定するならんと

●當世涅の盗み 原籍大阪府三島郡島本村住新野次郎（三五）と云ふは仁川敷島新地日本亭の抱藝妓大郎と云ふ寄麗首に夢中となり今迄費消せし金高も尠なからざるのみか時折り同亭より衣類を貿入する事實あるを探知し仁川署刑事は一昨日同人を本署に同行して取調べの結果先月京城永樂町橘洋服店に奉公中セル羽織及び吾妻コート（此價卅圓）を窃取して仁川に逃走し來り仲町三丁目の洋服店西川捷松方に前田宗太郎と偽名して入込み銘仙衣類及びインバチースを窃取して所在を晦まし居たるものと判明せしかば昨日檢事局に送りたりと

●空巢狙ひ捕はる 香川縣綾歌郡金山村大字江尻當時京城壽町二丁目新潤金三郎方居住金崎寅三郎（二十五）は四月四日午後八時頃明治町一丁目象光ちよ不在中蒲團二枚敷布團一枚時計一個（價格十五圓）を窃取し若草町古物商佐藤金三郎に金二圓九十錢にて賣却したる事發覺し昨日京城區裁判所檢事局に送らる

●天然痘患者發生 本年二月以降京城憲兵分隊管下洪川分遣所管內洪川郡三村面泉將里（洪川より東北方五里）に天然痘患者四名發生三名死亡せるのみにて蔓延に至らざりしが又洪川郡三村面遠洞に七名同面長南里に三名同面地陰里に一名計十一名發生し內四名は死亡し尙は蔓延しつゝありと

●亂暴者の説諭 京城漢江通り田町大工職小林源八（二九）村上増吉（二三）は請負業者某が大和町二丁目花二三亭なる料理屋に於て飲食中酩酊して怒鳴り込み請負工事歩合割歩請求を原因として暴行せし廉にて筆洞分遣所に留置せられ説諭の上放免せらる

●牛蒡から説諭 仁川敷島遊廓一山支店の雇人なる田中覺太郎（二六）と云ふは一昨日午後一時頃清人鄭福州なるものと牛蒡賣買上より爭論の末巡捕鄭に訴出でたるより日本巡査出張田中に大目玉を喰はしたる上歸樓せしめしと

●クラブ新製品發賣 クラブ洗粉を以て有名なる中山太陽堂にては洗粉と同じく化粧品として日常缺くべからざる歯磨及び白粉が未だ本邦人の理想に適すべき良品なきを遺憾とし各専屬顧問たる化學專門家をして日々研究を重ねたる結果今回良好なる製造原料のみを用ひて北米の歯磨よりも優れりとの自信あるクラブ歯磨及び無鉛トイレットクラブ白粉の二種を發賣せるが發表匆々非常の注文あるため同店にては製造に忙殺せられつゝありと因に今回東京支店を京橋區銀冶橋外に新設し廣告部並製品見本陳列所を開設せし由

料理屋の間抜けさ

大久保大將附の武官と僞稱して料理屋を荒し廻はる……

去る六日風采も餘り卑しからざる年齡三十一二とも見ゆる一人の男龍山和歌の家に登樓し我は大久保大將附の武官なりなど威張り散し仲居や藝妓を爛に揚いて頻かに食ひ酔ひ翌朝に至りて十四圓二十四錢の支拂を請求されたるも金の持合せなしとて又しても大久保大將の名を擔出し某副官に相談して金を取寄せんとて電話口に寄出し何か一二言話したる樣なりしも何の事やら頓と要領を得ず當人も勿論要領を得ん心持ちはあらざりしと見へ落着拂つて然らば十三聯隊に某村大尉を訪ひ同氏より出金せしめんと中居を引伴れ營所に到り刺を通じて面會を申込みしも然る者は知らずと刎ねつけられ今は餘儀無き體にて直接大久保閣下に御願せんと御苦勞にも大將の官邸に到りしに副官出でゝ應接の其間仲居は玄關前に待ち居しに類は友を呼ぶの道理か吾身に似寄りたる風體の女が一人二人と跡より〳〵押懸けて官邸の玄關先には時ならぬ南瓜の隊列オット仲居の集合が開かれたと女といふもの三人寄れば姦しいものとやら況して一人で三人役位は相勤める豪の物の集合なれば初めの中こそは目と目を見合せつゝ唾呑みして默つて居しも辛う〳〵永くは續かんやうなく遂には御場所柄をも辨まへずペチヤクチヤと囀づり出せし喧しさを應接間の副官が聞き付けて立出で見れば何の始末に何用にて來りしぞと訊ねしに今副官應接中の客人より支拂を受くる爲め斯くの始末と眥々口を揃へて喚き立てしにぞ物に動ぜぬ副官も頓と呆れて其仔細を糺せば和歌の家にて押擬げたる大布呂敷と大同少異の申立てに副官は件の男は軍人でも何でもなし固より大久保閣下に何の緣故もなしと云ひ聞け置き同人を追立てゝ仲居等と共に退散せしめたれば仲居等は開いた口も塞がらぬ莅驚き涙の出る程口惜くもあれど詮方なく遂に憲兵隊に突出し憲兵隊にて取調べたるに同人は兵庫縣城崎郡豊岡町瀬尾安次郎（三〇）といふ馬鹿者にて去三月二十九日京城に來り不知火旅館に投宿したるまゝ有りやうは西も東も分らぬ筈の新渡來者なりしといふ

京城居留民團公文

京城居留民團告示十八號

明治四十年京城居留民團規則第二號京城居留民團授業料及保育料徵收規則中左ノ通リ改正ノ件居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十三年四月八日

京城居留民團民長 古城菅堂

一明治四十年京城居留民團規則第二號京城居留民團授業料及保育料徵收規則第一條中「庚子紀念」ノ四字ヲ削除ス

京城居留民團告示第十九號

明治四十年京城居留民團規則第十號京城居留民團税則中左ノ通改正ノ件居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十三年四月八日

京城居留民團民長 古城菅堂

一明治四十年京城居留民團規則第五號京城居留民團税則第五條別表中左記ノ通リ改正シ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

第四號表

十四 券番 一箇所ニ付月税金二圓

十六 藝妓 月税

二種藝妓 一人ニ付金三圓

十七 仲居（旅人宿ニ於テ客ノ接待ニ從事スルモノヲ含ム）

甲種 一人ニ付金一圓

乙種 一人ニ付金二圓

二十二 諸興行 日税

一等 金一圓五十錢

二等 金一圓

三等 金七十錢

二十二ノ二 寄席 日税

一等 金七十五錢

二等 金四十錢

京城居留民團告示第二十號

明治四十年京城居留民團税汚物掃除割賦課徵收規則中左ノ通リ改正ノ件居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十三年四月八日

京城居留民團民長 古城菅堂

明治四十年京城居留民團汚物掃除割賦課徵收規則中左ノ通リ改正シ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

第一條中「月税トシ」ヲ削除ス

第二條 汚物掃除割ハ毎期左ノ等級ニ依リ之ヲ賦課ス

特別一等 金二十五圓

特別二等 金二十圓

一等 金十六圓

二等 金十二圓

三等 金八圓

四等 金五圓

五等 金三圓四十錢

六等 金二圓四十錢

七等 金一圓八十錢

八等 金一圓二十錢

九等 金九十錢

十等 金六十錢

十一等 金四十錢

第四條 汚物掃除割ハ左ノ六期ニ分チ毎期初月ノ一日現在ニ依リ賦課ス

第一期 四月一日ヨリ五月三十一日迄

第二期 六月一日ヨリ七月三十一日迄

第三期 八月一日ヨリ九月三十日迄

第四期 十月一日ヨリ十一月三十日迄

第五期 十二月一日ヨリ一月三十一日迄

第六期 二月一日ヨリ三月三十一日迄

第六條 汚物掃除割ノ納期ハ賦課ヲ爲スル月ノ末日限リトス但シ第五期ハ十二月二十八日限リトス

第七條 汚物掃除割ノ負擔ニ堪ヘスト認ムル者及特別ノ事情アルモノハ民長ニ於テ免除スルコトヲ得

京城居留民團告示第二十一號

京城居留民團債繰延ノ件左ノ通リ居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十三年四月八日

京城居留民團民長 古城菅堂

居留民團債償還年次表

償還年度	第一債（元金十万四千圓）償還元金	第二債（元金八千七百圓）償還元金	第三債（元金四万圓）償還元金	償還合計
四十年度	三、〇〇〇〇〇	……	……	三、〇〇〇〇〇
四十一年度	一五、〇〇〇〇〇	四、三五〇〇〇	……	一九、三五〇〇〇
四十二年度	……	……	……	……
四十三年度	……	……	一〇、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇
四十四年度	五、〇〇〇〇〇	四、三五〇〇〇	……	九、三五〇〇〇
四十五年度	一〇、〇〇〇〇〇	……	……	一〇、〇〇〇〇〇
四十六年度	二〇、〇〇〇〇〇	……	一〇、〇〇〇〇〇	三〇、〇〇〇〇〇
四十七年度	二〇、〇〇〇〇〇	……	一〇、〇〇〇〇〇	三〇、〇〇〇〇〇
四十八年度	三一、〇〇〇〇〇	……	一〇、〇〇〇〇〇	四一、〇〇〇〇〇
計	一〇四、〇〇〇〇〇	八、七〇〇〇〇	四〇、〇〇〇〇〇	一五二、七〇〇〇〇

美術半襟帶締其他紐類各種
京城明治町一丁目 電話一千四百〇九
ゑり德商店

廣告

薩摩流割烹
歌舞伎辨當
材料の豊富と技術の熟練は割烹界に於ける弊店の特色に有之候
京城南山町二丁目
すはま
(電話一五〇二番)
御注文の儀は電話又は一報次第即刻持参可致候

經濟無比 即席吸物
●即席吸物は味の素より御手輕で風味善き品々一包に只煮湯を注げば速席御馳走が出來ます
●不意の御來客の時は最も上品な美味經便の吸物で與饌始め御獨身の御方には至極重宝な料理であります
●論より證據一度御使用の上御試しあらん事を偏に願上ます
一袋十人前入 金十五錢
●各日用食料雜貨店に販賣致します
●御卸賣は特に御相談に應じます
●御一報次第多少に不拘持參致します
●遠隔の地は御報次第小包で送ります
即席吸物製造發賣元 砂本支店
龍山榮町日用雜貨卸小賣
(電話七一二番)

入院隨意
京城壽町三丁目(電話三七八番)
中島醫院
院主 醫學得業士 中島貞信

入院隨意
內科 外科 小兒病 花柳病
京城壽町三丁目
高井醫院
電話(二一六)
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

最上醬油
仁川港
釀造元 三巴醬油釀造場
電話七十參番
京城本町壹丁目
發賣元 三巴酒店
電話七五三番
龍山本町三丁目
發賣元 三巴酒店支店
電話五六四番

明治廿年七月創立
東京火災(海上 運送)保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九番
事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

春服及夏服地新荷着廉價調進
弊店儀豫て歐米各產地へ直輸入約仕置候春服及夏服地頃日漸く輸入相成殊に當年は毛質善良光澤美麗染色堅牢に出來上り參候而已ならず縞柄に至ては歐米最新流行柄を撰擇織立させ候事とて隨分新奇物多々輸着仕居候裁縫は弊店特得の技術を揮ひ附屬品を撰み精巧優美に御調進可仕候間續々御用命の程奉願上候
追て價額の儀は前陳直輸入之故を以て內地輸入及消費稅を免れ非常に低價に被引取候に付き普通內地廻り品よりは一割引以上安價に調進可仕候附ては顧客各位の御引立を蒙り候結果業務擴張の爲分工場を增設仕候に付き如何なる急速の御注文と雖も御間に合せ可申候間御用有之候節は電話又は郵便にて御下命被下度左すれば直に御伺可申上候
京城南大門通三丁目(電話六九〇番、一二三番)
丁子屋洋服店
京城本町二丁目(電話一二〇番)
丁子屋分店

ゑし道樂

鯛 松たけめし 一人前三十錢
あなご 竹の子めし たなしく
鷄 ゑんどうめし たなじく
御光來の程を待ちかねて居ますから、御賞味を賜はりたう、尙ほ多少によらず出前も仕ります、呉々も御用命伏して御願申上げます
大和町三丁目
梅の家眞向ひ
電話七三五番
明月

廣告

弊會社儀開業以來幸に大方諸彦の御眷顧に依り瓦斯引用御申込日に月に增加するの盛況に有之候に付ては此際益々御便利を圖ると同時に瓦斯普及の目的を達せんが爲め左の通り改正致候間何卒倍舊御需用被成下度此段奉願上候也

一、引込料は長距離に亘らざる以上は一般無料と致候
二、屋內管工費は從來一孔口に付金三圓なりしを改めて金壹圓五錢と致候
三、器具類は今回最新最便のものを仕入れ其定價も從來よりは二三割方安價にて御需用に應候特に熱用に對しては御便利を計り可申候
四、瓦斯原料の石炭は今回試驗の上最良のものを購入し臭氣は少しも無之樣取計申候
五、近日中に南大門外舊龍山路に器具販賣及引用申込の取次所を新設し大方の御便利相計り可申候
六、此頃弊會社に御相談なく上向「ランプ」御使用の向も有之哉聞及候右は一應弊會社に御通知被下度候
七、漏洩其他故障有之候場合には直に泥峴陳列所又は龍山出張所へ御申出被下度候
八、販賣修理及檢査の爲め巡回員を差出候節は細大となく御申附被下度候

明治四十三年四月
鐘路
日韓瓦斯電氣株式會社

●貴族の同情
クラブ洗粉に集る(其二)
本舗は再び此光榮に對し尙益最善を盡して御鴻恩に酬ひ奉らんのみ 本舗主人

●奥田子爵閣下令夫人の談
▲品質は最も卓絶せり
主人は軍人ですから化粧品などは如何でも可いと云ふ風ですが先年親類からクラブ洗粉を貰ひましてから私や娘子供は大喜で使用て居ります大變に品が結構であります、云々

●土井利興子爵閣下の談
▲大變白粉の乘りが良い
クラブ洗粉を用ゆると大變白粉の乘りが良いと言つて家內や娘は大喜びです此頃では一家の男女は勿論親類緣者にも吹聽して居る位です、云々

●白川子爵閣下令夫人の談
▲冬向き皮膚の荒れる時
私は先年來クラブ洗粉を使つて居りますが冬向き皮膚の荒れるとき彼れを微溫湯で溶解して使ひますと荒れを防ぐのみならず「スベ〳〵」して後の心持が誠に好く御座います、云々

●鳥尾光子爵閣下の談
▲簡短なる美顏術
私は從來刺戟性の石鹼を用ゐる事が嫌ひで既製の和洋各種の洗粉を使用して居つたが好いものは價が高く價の廉いものは例の澱粉許りで意に適した者がなかつた、然るに最近クラブ洗粉の供給に依つて大に實質經濟上滿足を得る事が出來た先づ使用上の快感より言へば第一に顏の脂肪を去り次に香料と効用に富むで居る事である彼樣な化學的化粧品の成功は啻に婦人社會の歡迎する所なるのみならず男子に取りても簡短なる美顏術の福音を得たものと言つて可からうと思ふ、云々

●松井子爵閣下令夫人の談
▲石鹼では頭髮を洗はぬ
私の家ではクラブが出來てからは家內中の男女が使用して居ります普通の石鹼では婦人の頭髮は洗へませぬがクラブ洗粉は落が好のと髮の爲にも好いと申して召使ひなぞも皆喜むで居ります、云々

★株式會社百三十銀行韓國總支店
京城本町二丁目十五番地
電話五十八番
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿內 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戶、平野、住吉、茨木、下市
東海道 東京、横濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名松阪、
東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮福島、若松、靑森、秋田、能代、七崎、高崎
北陸道 小濱、福井、敦賀、舞江、金澤、
山陰道 大聖寺、宮山、伏木、新潟、宮津、舞鶴、新舞鶴、豊岡、鳥取
山陽道 米子、境、松江、久手、大田、龍野、姬路、西大寺、笠岡、高梁、玉島、福山、鞆、府中、尾の道、三原、廣島岩國、山口、柳井、平生、下關、萩、德山小郡、長府、網干、
南海道 牛窓、味野、岩見、岡山、串本、御坊、田邊、新宮、和歌山
西海道 尾鷲、州本、撫養、德島、普通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱、直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲、
北海道 函館、小樽、札幌
台灣 臺北、臺南、
清韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、馬山、大邱、群山、安東縣、晋州、肉州、馬山
銀行一般の業務續々便利取扱可申候

京城鐘路の喰物は何んたろー!
裁判所前の洋食店 鐘路軒の
松茸めし
酒一本外和洋料理五品附 一人前六十錢
又和洋料理和洋食共辨當の注文するとすぐ一つでも持つてくる極く便利ですよ
價が安くてうまくてはらニたまるよ皆さん一度たべてごらんなさい
電話壹四二九番 客用有ます
◎監獄辨當の差入も引受ます◎

宮內府御用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸雜料類
委託販賣
東京ランバーグ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約
釜山(合資會社)食鹽特約
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)
出張所 東京 京橋南鍋町一丁目 新橋電話十一番 二九六三

特約販賣 自製
大上商店
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
支那白菜漬
朝鮮菜葉漬
大賣出し
(電話二五一番)

金魚各種
卸 小賣

陸軍御用達
龍山山下町一丁目(兵器支廠官舍入口)
馬木勇吉本店
電話三六四番

茶器商
京城本町五丁目一番戸角
馬木勇吉支店
電話四七一番

齒科治療
本町六丁目
ドクトル 中村安子
(蕎そば横町)電話一五八三番

胃腸新藥
ヌカヂアスターゼ
韓國總代理店
仁川本町二丁目電話八五〇番
竹田津三平

婦人新藥之靈藥 十二 月經不順
中將湯
月經閉止、子宮病、血の道に特效の藥を全治す

衛生と滋養と
牛乳
配達車馬
京城南山町 牧場
電話〇六九番